

青森花火大会

8月7日の夕方は、花火大会とねぶたの海上運行が行われます。どちらも、青森の地元の人々や観光客たちが楽しみにしているイベントです。花火大会は1955年に初めて開催され、それ以来、今では青森の夏の見どころとなっています。2時間にわたって、11000発以上の花火が、陸奥湾を彩ります。花火の下ではねぶた海上運行が始まり、優勝した山車が持ち上げられ、船に乘せられて、港の周りを運行します。

ねぶた祭の起源は、その地域の、川や海に灯籠を浮かべる夏の伝統である、七夕祭の一種にあります。海上運行は祭の道のりの参詣であり、山車は青い海公園、ラッセランド（祭の間の山車の格納場所）、かつて本州の青森と北海道の函館との間を行き来するために利用されていた、引退した船であるメモリアルシップ八甲田丸を通り、港を周回します。囃子の音楽合奏団が演奏する祭のメロディと「ラッセラ」の歌がはるか遠くから聞こえ、その独特な音色は活気溢れる花火と音が混ざり合います。